

血液検査用アルカリ性フォスファターゼキット

エクティア® XL '栄研' ALPⅡ-J

はじめに

ALPは腎臓、小腸、骨芽細胞、胎盤、肝臓、乳腺等に比較的多く存在し、細胞膜に局在して膜を通してのリン酸の転送に関与すると考えられています。血中では骨疾患、肝・胆道疾患、妊娠、悪性腫瘍等で高値を示します¹⁾。

エクティアXL '栄研' ALPⅡ-Jは、血清または血漿中のALP活性を酵素反応速度法により測定する方法で、日本臨床化学会 (JSCC) 勧告法処方に基づき自動分析装置用に開発した試薬です。



特徴

- JSCC標準化対応試薬です。
- 血漿測定が可能です。
- 使いやすい液状試薬です。
- 共存物質の影響がほとんどありません。
- 試薬開封後の安定性が1ヶ月と非常に安定です。

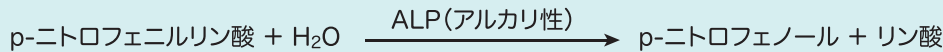
包装単位・貯蔵方法・有効期間

製品名	R1/R2	包装単位	製品コード	貯蔵方法	有効期間	適応機種例
エクティア® XL '栄研' ALPⅡ-J	試薬-1	60mL×4	G-QA01	2~8℃	1年間	日立7170
	試薬-2	30mL×4	G-QA02			
	試薬-1	80mL×4	G-QA03			日立7070
	試薬-2	40mL×4	G-QA04			

※ キャリブレーターは当社指定の酵素キャリブレーターをご用意ください。

測定原理

検体中のALPは、アルカリ性下でp-ニトロフェニルリン酸を基質として、p-ニトロフェノールとリン酸を生成させます。p-ニトロフェノールは405nm付近に吸収極大をもつので、この吸光度の増加速度を測定してALP活性値を求めます。



使用目的

血清又は血漿中のアルカリフォスファターゼ(ALP)の測定

測定範囲

7～2000 IU/Lまで直線性を確認してあります。

基礎データ²⁾

測定機器：日立7180形自動分析装置

■ 同時再現性

単位：IU/L

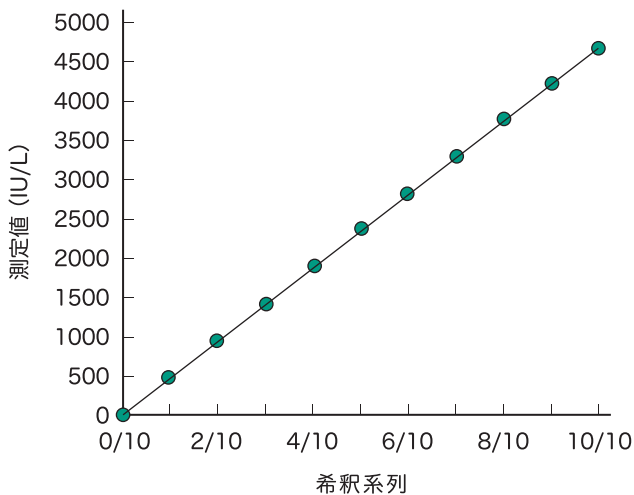
	試料1	試料2	試料3
N	20	20	20
Mean	77.3	214.9	267.8
S.D.	1.0	1.0	1.6
C.V.(%)	1.3%	0.5%	0.6%
Max.	81	218	271
Min.	77	213	264
Range	4	5	7

■ 妨害物質

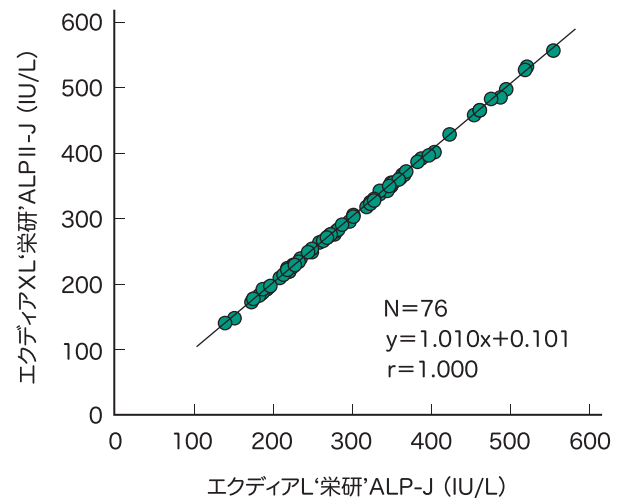
下記濃度まで測定値への影響は認められませんでした。

アスコルビン酸	20 mg/dL
遊離型ビリルビン	20 mg/dL
抱合型ビリルビン	20 mg/dL
ヘモグロビン	500 mg/dL
乳び	3000 ホルマジン濁度

■ 希釈直線性



■ 相関性



主要文献

- 1) 金井 正光, 他: 臨床検査法提要, 改訂第32版, 金原出版, 東京, 590-595, 2005.
- 2) 社内データ

本試薬の使用上または取扱い上の注意については、製品添付文書をご参照ください。